

三智江さんから以上のような非常に有り難い「読後レター」をいただいたので、私は次のような「御礼レター」を書きました。

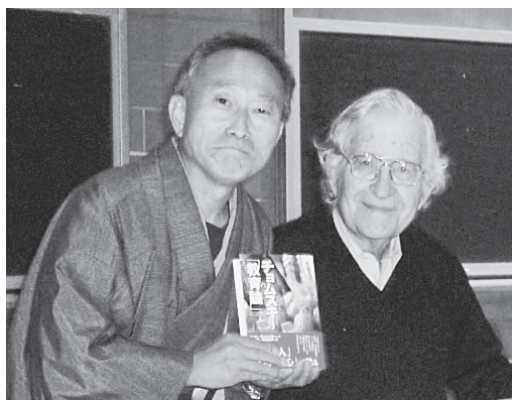
三智江さん 拙著『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』の読後レポート、有難うございました。インドに帰国する直前に拙著4巻お送りしたので、かえって迷惑をおかけしたのではないかと心配していました。

それにしても、ラッパーとしてインドで超有名な息子さんの来日公演も成功したようで喜ばしい限りです。日本全国を駆けまわる講演旅行でしたから付き添っておられた三智江さんもさぞかし大変だったろうと推察しています。

広島では嚴島神社にも行かれたようですね。息子さんの感想はいかがでしたか。私はまだ一度も行ったことがないので、死ぬ前に一度は行ってみたいと思っていた神社でした。潮が引いたときは大鳥居にまで行けるそうですね。

ところで拙著でも書きましたが、チョムスキーがワクチン賛成だったという事実を知ったときは驚愕しました。しかもワクチンを接種しない人を批判するビデオを見たときは、アメリカの左翼知識人の限界を改めて知らされました。

とは言っても、日本共産党もワクチン賛成でしたから、どこも同じでしたね。これも拙著で書きま



したが、まるでガリレオの時代に戻ったかのようです。「クライナ問題」でも同じでした。かつての「北斗七星」も地に落ちました。残念です。

それはともかく、今まで三智江さんが、亡くなられたインド人の夫君とどのようにつき合っていたかが私にとつてずっと謎でした。しかし銀座新聞で連載されていた短編小説を読んで初めて、その謎の一角が解けたように思いました。

今後の連載も楽しみにしています。

寺島隆吉

## 7

名著の誉れ高いチョムスキーの著書『Manufacturing Consent』の出版20年を記念した国際学会が、二〇〇七年、カナダのウインザー大学で開かれました。

(ちなみに、この邦訳は『マニファクチャリング・コンセント、マスメディアの政治経済学』全2巻が、トランスビューから出ています。Manufacturing Consentは「合意の捏造<sup>ねつぞう</sup>」という意味ですが、邦訳はカタカナ語のままです。)

上の写真は、その学会に参加したとき、「一緒に写真を撮りた

いかい」と誘われて、喜び勇んで撮ってもらった写真です。手にしているのは、拙訳『チョムスキーの「教育論」』（明石書店、二〇〇六）です。一緒に写真を撮らせていただいた御礼に、この拙訳をチョムスキーに謹呈しました。

チョムスキーは当時の私にとっては神様のような存在でしたから、そのような人物から一緒に写真を撮ろうかと誘われるとは想像だにしていませんでした。

そのような氏が、この「コロナ騒ぎ」で「地に落ちる存在」になってしまったことは残念の極みです。そういう意味では、今度の「コロナ騒ぎ」は、左翼リベラルを分断して権力に取り込む武器として最高の力を発揮しました。

なぜなら、国防総省がWHOと大手メディアを使って国民をワクチンの強制接種に追い込んだことは、まさに「合意の捏造」<sup>ねつぞう</sup>そのものでしたから。

\* Remove the Unvaccinated From Society, Says Radical Leftist Noam Chomsky (ワクチン非接種者を社会から排除せよ。最左翼のチョムスキーが発言) by Kyle Schmidbauer  
<https://theleftyloft.com/2021/10/26/remove-the-unvaccinated-from-society-says-radical-leftist-noam-chomsky/>

チョムスキーほどの人物が、なぜこのような騒ぎに巻き込まれ、このような発言をしたのか、不思議でたまりません。この謎解きは今後の私の課題です。

## 7

それはともかく、私が三智江さんに上記のような御礼レターを差し上げたところ、またもや、次のよう

な有り難い手紙が届きました。

寺島先生

大変遅くなりましたが、この連休中に、昨年十一月お送りいただいた『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』4巻を読了させていただきましたので、感想を送らせていただきますす。

毎度のことながら、大変読み応えのある内容で、かつよく整理されて読みやすく、圧巻でした。

ワクチンが生物兵器との恐ろしい結論には、震撼いたしました。ペンタゴンによる軍事使用目的、仕組まれた劇の裏側が暴かれ、謎が紐解かれていく経緯に、引き込まれました。

また、第3巻にはわたくしどももご紹介いただき、ありがとうございます。

福島先生（京都大学名誉教授）の動画については、ISF（Independent Spec Forum 独立言論フォーラム）の木村編集長にもお知らせしたのですが、既にご存じだったため、寺島先生も視聴済みにながいないと思っていました。

それで、無用な情報を転送してお忙しい先生を煩わせたかもしれないと思い込んでおりました。にもかかわらず本書第3巻でご紹介いただき、びっくりしました。改めて御礼いたします。

個人的には、3巻の第6章の秋月医師の長崎原爆の奇跡（和食の底力）が一番興味深かったです。既に昨年2月の春日井市における講演会でも、ワクチンの解毒剤として塩辛い味噌汁の効力について、

発表しておられ、一般聴衆へのインパクトも強かったと思います。

昼食に入った駅前のバーガー店で、講演会の出席者と思われる主婦2人が、「塩辛い味噌汁がいいんだって」と、先生のお話にひととき印象を覚えた様子で頷きあっていたことは、お知らせした通りです。講演会では、持ち時間も少なく、このくだりの詳細を拝聴することはかきませんでした。が、本書で詳しく説明されており、興味がそそられました。

また、2時間の持ち時間が10分短縮されたことで、予定されていた動画や映像が30枚も見せられなくなっており、困っておられた内情についても本書で知り、改めて必然性のないジャズ演奏（息抜き？）を短縮するよう主催者が取り計らうべきだったのではと思いました。

装丁に関しては、やはり装画が素晴らしいです。よく内容を掴んだマッチしたイメージの絵柄になっており、効果を高めておりました。

特に4巻の中表紙の絵柄は、題名のコロナとウクライナをむすぶ太い黒縄のイメージがよく出ており、よかったです。

3年間にわたり、計10巻（『コロナ騒ぎ謎解き物語』3巻、『ウクライナ問題の正体』3巻、『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』4巻）の謹呈を拝読させていただき、いろいろ学ばせていただきましたこと、改めて篤く御礼申し上げます。

暴かれた真実が空恐ろしすぎて、つい目を背けたくりますが、先生のご高書で真実を見抜く力、知恵を学ばせていただきました。

実践については、未熟ゆえまだまだ追いつきませんが、差し当たっては自分の内面を整え、平和に保つことに努めたいと思います。

無力な私は、まずその個の立場からスタートしたいと思います。個々人が内面を平和に調和させることがひいては、世界の平和に繋がると信じて。

葛藤だらけで、屈託がありすぎる私には、旅がひとつの特効薬、インドが私を変えたように、また広い世界に飛び出して、別人に生まれ変わって帰ってきたいです。

以上簡略ながら、感想を送らせていただきました。

改めて、二〇二二年この方10冊もご著書を贈呈いただきましたご厚意に対して、篤く御礼申し上げます。

モハンティ三智江拜

## 追記

広島にはずっと行きたいと思っていたので、今回愚息同伴で訪ねることができ、感無量でした。愚息にも、世界唯一の被爆国日本の広島は必見と言って、強く勧めた次第です。原爆ドームを見て、胸が詰まりました。近くを流れる清らかな川も、原爆投下後は累々と死体で埋まったと思うと、79年後のいまが過去の悲劇と裏腹にあまりに美しすぎるため、余計印象深かったです。

凄惨な歴史を思い返すからこそ、尚更光り輝いて美しく見えたのかもしれませんが。水と緑の都、折柄桜満開で、フェリーで渡った宮島の厳島神社も華麗な緋桜に彩られ、絶景には感嘆の息が漏れるばかりでした。

お忙しいと思いますが、合間を縫ってぜひご夫婦で訪ねてみてください。私は、広島がこんなに美しいところだとは思わなかったため、感激しました。愚息も、厳島神社のある宮島の美しさには、感激したようでした。

## 8

以上が三智江さんからいただいた「読後レター」のすべてです。

広島は、私の卒業した教養学部教養学科「科学史・科学哲学」の一年先輩が広島大学に赴任したので、彼を訪ねた折、原爆ドーム、広島平和記念資料館も見学しました。「八月六日の灯籠流し」も見ることができました。

しかし現在の平和記念資料館は、改装の折、「被爆再現人形」が撤去され、当時の悲惨さ・生々しい様子を減じられたかたちに変えられてしまったという声が聞こえてくることは残念でたまりません。

このような動きは、各地の公立図書館で漫画『はだしのゲン』が閲覧禁止になっている動きと軌を一にするようで心配です。英語版の『はだしのゲン』でさえ世界中で広まってきているのに、日本でそれに逆行する動きがあるというのも、日本の右傾化を象徴しているのかも知れません。

これは「平和憲法改悪」「日本を再び戦争のできる国にする動き」と無関係ではないようにも思えます。

さらに言えば、「ヒロシマ」出身であるはずの岸田首相が、アメリカの指示で沖縄の石垣島・宮古島などに中国包囲網の自衛隊基地を建設し、それを強化する動きを見せていることも、更なる関心事です。

三智江さんは原爆ドームだけでなく、息子さんと一緒に平和記念資料館を訪れるゆとりはあったのでしょうか。ふとそんな疑問が湧いてきました。

## 〈本章のキーワード〉

福島雅典（京都大学名誉教授、「コロナ騒ぎ」が欺瞞であったことを公の場で糾弾して有名になった）

ノーム・チョムスキー（Noam Chomsky、MIT名誉教授）

サーシャ・ラティポワ（Sasha Latypova、元製薬会社の研究開発幹部）

FOIA（Freedom of Information Act：情報公開法）

DOD（Department of Defence：国防総省、ペンタゴン）

Manufacturing Consent：The Political Economy of the Mass Media（ねんせう同意の捏造：マスメディアの政治経済学）